トヨタ自動車特集

新興国を成長の原動力に

EFCを各地で展開

成長市場の新興国をめぐり世界の自動車メーカーの競争が激しくなっている。新興国市場での成否は各社の成長を大きく左右する。トヨタ自動車はグローバルビジョンで2015年に新興国の販売比率を11年の40％から50％に高める方針。そのカギを握るのが新興国専用戦略車だ。「IMVシリーズ」に次ぎ小型車「エントリー・ファミリー・カー（EFC）シリーズ」を新興国の各地で展開する。世界最大市場の中国では、これにハイブリッド車（HV）戦略を加えて巻き返しを図る。

ブラジルに「エティオス」

「軽快でキビキビとした走りはブラジルの大地を駆け回るのにフィットしている」。豊田章男トヨタ社長が、こう力強くアピールするのは9月末にブラジルに投入するEFCシリーズ「エティオス」だ。

ブラジルはドイツを抜き世界4位の市場に成長した。近い将来には日本をしのぐとも言われる。しかしトヨタのシェアは約3％と振るわない。イタリア・フィアット、ドイツ・フォルクスワーゲン（VW）などの欧米勢に出遅れている。その要因の一つはブラジルの新車販売の6割を占める低価格小型車が手つかずだったこと。現在、同国で生産・販売している小型車「カローラ」は現地では高級車として扱われている。

逆に欧米勢は低価格小型車の分野で圧倒的シェアを握っている。トヨタが満を持して投入するエティオスはまさに、その低価格小型車。トヨタが同国で巻き返せるかどうかのカギを握る重要車種だ。

エティオスはトヨタがサンパウロ州ソロカバ市に建設し、8月に開所式を実施した新車両工場で年間7万台を生産する計画。部品の現地調達率を高めるため同ポルトフェリス市に年産能力20万基のエンジン工場を建設し、15年後半に稼働することも決めた。これによりエティオスにおける部品の現地調達率は当初比20％増の85％になる。

ただ迎え撃つ欧米勢のほか、日系や韓国などのメーカーも現地での事業強化に動いており競争環境は厳しくなる。トヨタは「エティオスを真のブラジルの国民車として育てていく」（豊田社長）ことで10年以内に同国市場でのメーンプレーヤーを目指す。

エティオスはブラジルに先立ち10年12月にインドで発売した。ハッチバックとセダンの2タイプを用意。発売から1年5カ月で累計販売が10万台を超えるヒット車種となっている。南アフリカ共和国への輸出も始めた。エティオスの販売増を背景にトヨタはインド・ベンガルール市の車両工場の年産能力を13年には現状比10万台増の31万台に拡大する計画だ。

ブラジル版のエティオスは、このインド版をベースにエンジンをエタノール混合燃料に対応させたり、足回りを変更したりして現地ニーズに合わせた。インドのエティオスから始まったEFCの展開は、IMVに次ぐトヨタの新興国戦略の柱となる。

ブラジル・ソロカバ市の新工場の開所式

インドに次ぎブラジルに投入するエティオス

中国ではHV一貫生産

中国専用のHVのコンセプトモデル

タイなど東南アジアを中心に生産する「IMV」は1種類の専用車台からピックアップトラック、スポーツ多目的車（SUV）、ミニバンの計5車種を展開。この5車種をベースに地域ごとの仕様を計330種類用意し、140カ国以上で年間約80万台を販売する車に成長した。

EFCもIMVの成功を生かし、派生車展開を進める。15年までに計8車種を用意する計画だ。その上でIMV同様、各地の嗜好や使用方法に合うきめ細かな仕様を設定。100カ国以上で年間100万台を販売するシリーズに育成する。

EFCシリーズはインド、ブラジルに次ぎ今後、インドネシアやタイ、中国でも投入すると見られている。それぞれの国では生産体制の増強も進める。インドネシアではカラワン県に第2車両工場を建設し13年初に稼働する。さらに14年初には、その新工場の年産能力を稼働時比5万台増の12万台に増強する。これらによって、同国での車両年産能力は現在比12万台増の23万台に拡大する。

タイではゲートウェイ工場（チャチェンサオ県）に年産能力7万台の第2工場を建設し、13年半ばに稼働する。これによってグループ会社を合わせた現地での車両年産能力は76万台と大きく増える。

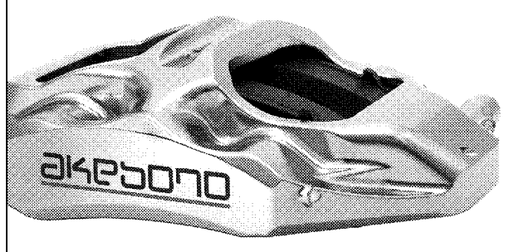
「HVの魅力を、中国で生まれたHVでお届けする」（豊田社長）。トヨタは15年をめどに中国でHVの一貫生産を始める計画だ。現状は日本でのみ生産している電池や駆動ユニットなどの基幹部品まで現地で生産する。

ここまで中国重視の姿勢を鮮明にする背景には同国での苦戦がある。世界最大市場の中国においてトヨタのシェアは約5％にとどまり、VWや米ゼネラル・モーターズ（GM）などに大きく水を空けられている。巻き返しの足がかりとなるのがEFCやHV。EFCは今後、中国版を投入して先行する競合を追い上げる。

HVは13年に全面稼働する江蘇省常熟市の研究開発拠点で、中国の合弁相手や部品メーカーなどと開発を推進。中国製HV基幹部品を搭載したHVを、現地の二つの合弁会社で生産する。15年には150万－180万台と、最大で11年実績の2倍に拡大する計画だ。

―― 自動車部品専門メーカー ――
小島プレス工業株式会社
本社　愛知県豊田市下市場町3丁目30番地　TEL 0565-34-6868（代表）

豊田鉄工株式会社　〒471-8507　豊田市細谷町4-50　TEL.0565-26-1212（代）
URL　http://www.tiw.co.jp

さりげない安心と感動する制動を


曙ブレーキ工業株式会社
〒103-8534　東京都中央区日本橋小網町19番5号

SANGO
人-もの-環境を結ぶ ものづくり
自動車部品・マフラー・エキゾースト・磨棒鋼・引抜・構造用鋼管の専門メーカー
株式会社 三五
本社／〒470-0294　愛知県みよし市福田町宮下1番1　TEL（0561）34-0035（代）
http://www.sango.jp

KITO　鬼頭工業株式会社
愛知県豊田市細谷町5－16
TEL：0565－28－5771
http://www.kitomac.jp/

短納期で顧客要求対応
社内一貫生産
設計　製作　鋳造　加工
中央可鍛工業株式会社
■日進工場：〒470-0128　愛知県日進市浅田平子1丁目300番地　TEL.052-805-8600 FAX.052-802-1267
■中川本社：〒454-0037　愛知県名古屋市中川区富川町3丁目1番地の1　TEL.052-361-3141 FAX.052-361-3145
■熊本工場：〒869-1233　熊本県菊池郡大津町大字大津字土井ノ内31番地　TEL.096-293-4531 FAX.096-293-7996
■中国SCM（中央可鍛100％出資）江蘇省蘇州市呉中経済開発区
http://www.chuokatan.co.jp/

PACIFIC　太平洋工業株式会社
本　　社／岐阜県大垣市久徳町100番地　TEL（0584）91-1111
工　　場／西大垣・東大垣・北大垣・養老・美濃・九州・東北
海外拠点／台湾・韓国・アメリカ・タイ・中国・ベルギー
http://www.pacific-ind.co.jp

TAKAGI
株式会社　高木製作所

http://www.takagi-mfg.co.jp/
〒460-0024 愛知県名古屋市中区正木三丁目6番6号
TEL 052-331-3461 / FAX 052-332-0739

TOKAI RIKA
触れた瞬間、クルマとの対話が始まる。
感動をかたちに
株式会社 東海理化
〒480-0195 愛知県丹羽郡大口町豊田三丁目260番地
Tel.(0587)95-5211　Fax.(0587)95-1917
www.tokai-rika.co.jp/

トライボロジーから拡がる 環境対応製品
TAIHO
私たちの技術はあなたの見えないところで
クルマの未来を支えています。

地球規模での環境対応が求められる今、トライボロジーは
さまざまな機械分野で「エネルギー損失を最小限にとどめる」ための
キーテクノロジーとして注目されています。
大豊工業では創業以来、すべり軸受の研究・開発・製造を通し、
トライボロジーに深く関わり、独自の環境対応製品を
お届けします。
大豊工業株式会社
〒471-8502　愛知県豊田市緑ヶ丘3-65　URL http://www.taihonet.co.jp/
TEL 0565-28-2225(代) FAX 0565-28-2227　銘柄コード：6470(東証一部 名証一部)

東海ゴムは、もう、東海だけの会社ではありません。
1988年に初の海外生産拠点を設立して以来、
今では海外9カ国に31の拠点を展開する
グローバルな総合高性能部品会社。
自動車・IT・通信・電子機器から住宅まで
幅広い事業分野をカバーし、世界的な変化に対応する
グローバルな生産ネットワークづくりを進めています。
東海から世界へ。ゴムから新分野へ。
時代のニーズを先取りし、世界中で新たなチャレンジを続ける
東海ゴムに、ご期待ください。

TRI TOKAI　東海ゴム工業株式会社
http://www.tokai.co.jp/
●本　　社／〒485-8550 愛知県小牧市東三丁目1番地　☎（0568）77-2121（代表）
●支社・支店・営業所／東京・大阪・広島・仙台・福岡　●製作所／小牧・松阪・富士裾野

未来へ世界へ

CHUHATSU
ばねとコントロールケーブルの総合メーカー
中央発條株式会社　〒458-8505 名古屋市緑区鳴海町字上汐田68番地　tel.052-623-1111　http://www.chkk.co.jp